

令和3年度 学校評価書

山形県立村山特別支援学校山形校

【学校教育目標】 すすんで学び、よりよく生きる人を育てる 【めざす子ども】 心も体も元気な子ども 生活する力のある子ども 自分の思いや気持ちを伝える子ども	【教育方針】 (1) 一人一人が今もっている力や特性を的確に把握し、また本人や保護者の思いや願いを踏まえ、育てたい力(育成すべき資質・能力)を整理します。 (2) 必要な知識や技能、思考力、判断力、表現力などを、子どもたちが受け身ではなく主体的にすすんで学び身につける日々の授業を展開していきます。 (3) 卒業後の生活の中で、暮らすことと働くこと、余暇を楽しむことなど、生涯にわたってよりよく生きることが出来る人を育てていきます。
--	--

評価方法：教員・保護者とも【めざす学校】及び【今年度の重点】に沿った評価項目を設定し、4段階で評価。

評価基準：4（良い・そう思う）、3（ほぼ良い・だいたいそう思う）、2（やや改善・あまり思わない）、1（要改善・まったく思わない）

達成度：＜4～1の4段階評価のうち、4と3の合計（%）＞ 80%以上をA（達成できた）、60～79%をB（ほぼ達成できた）、40～59%をC（あまり達成できなかった）、39%以下をD（達成できなかった）、で示す。

【めざす学校】「安心して任せられる、安全な学校」 及び 【今年度の重点】「安心、安全な学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
①新型コロナウイルス感染症対策	・三密の回避と健康観察の徹底。手洗い、マスク着用、咳エチケット等の継続指導。感染症に配慮した学習活動の工夫。	・日常的な手洗いなどの指導と計画的な保健指導が成果を上げている。 ・自動水栓や空気清浄機など、設備面での感染症対策が進んだ。 ・どうすれば行えるかの視点で工夫し様々な学習活動を実施できたことで、児童の経験の拡大につながった。 教員(10/10)、保護者(9/9)	A (100%)	・従来は合同(本校・天童校)で行っていた学習活動等について、よりよい在り方を今後も検討していく。【学部】 ※R4年度は、運動会・むらとくまつりとも山形校単独で実施。
②家庭や関係機関と連携した心と体の健やかな育成	・家庭及び放デイ等との日常的な連携(目標、支援方法、成果等の情報共有、共通理解)。ケース会の活用と関係機関との連携。	・児童の情緒面や健康面について家庭及び放デイ事業所と連携を密にし、共通理解に基づく支援を行うことができた。 ・通年で昼休みにウォーキングや室内運動に取り組んだことで、児童の運動量確保と肥満防止につながった。 教員(10/10)、保護者(9/9)		・月1回のケース会設定日を一つの機会として捉え、担任等へ必要性の確認を継続するとともに、児童理解の場など有効な活用方法も探っていく。【特支コーディネーター、教育支援委】
③安全な学習環境づくり	・定期的な安全点検と日常的な安全管理。ヒヤリハット・事故事例の速やかな職員間での共有。校内の整理整頓と安全な学習環境づくり。危機管理マニュアルの周知、必要な見直し。	・事故・ヒヤリハット事例は、原因と再発防止策を含め終礼等で速やかに報告し職員間で共有した。危機管理意識の向上にもつながった。 ・不審者対応訓練(山五小と合同)は、前年度の訓練を踏まえた内容でポイントが明確だったため、得るものが多かった。 教員(10/10)、保護者(9/9)		・日常的な安全管理として、引き続き児童の目線に立った整理整頓を心掛け、安全でよりよい学習環境づくりに努める。【全体】 ・危機管理マニュアルは、実際に即した必要な見直し・修正を更に進めていく。【保体部、教頭】
【めざす学校】「早く登校したくなる、楽しい学校」 及び 【今年度の重点】「一人一人に応じた指導・支援の充実」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
④個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用	・授業づくりにおける個別の指導計画の日常的な活用。集団における個別化と T.T.の充実。学習グループ・形態の工夫。連携のツールとしての個別の教育支援計画の活用。キャリア教育の視点からの指導・支援。	・学級をベースにしながらも小・大集団(合同)など様々な学習形態を仕組んだことで、集団参加を促す学習ができた。 ・単元における目標設定や評価の際など、常に個別の指導計画を基に、また立ち返りながら授業づくりを行うことができた。 教員(10/10)、保護者(9/9)	A (100%)	・個別の指導計画に基づき、学習のねらい(目標)に応じた効果的な学習グループ・形態を工夫していく。【学部】 ・登校時刻を守ることに伴って、基本的な生活習慣の形成やキャリア教育の面からも家庭と連携して取り組んでいく。【学部】
⑤指導目標と評価の一体化(PDCA サイクル)	・授業記録の習慣化と活用による、学習評価に基づく継続的な授業改善。複数の目による妥当性の向上(担任会、評価検討会)。行事等における児童の姿からの振り返り。	・金曜日は会議を入れず「振り返りの日」として呼び掛けを継続したことで、授業記録の習慣化が図られた。 ・担任会や評価検討会を通し、目標・手立て・評価の妥当性を複数の目で検討することができた。 教員(10/10)、保護者(9/9)		・(評価の根拠として)授業記録をつけるだけでなく、日々の授業改善(手立ての修正等)に確実に生かしていく。【教務部、学部】 ・行事・活動ありきにならないよう、学習評価(児童の姿)からの振り返りと改善を継続していく。【学部】
【めざす学校】「早く登校したくなる、楽しい学校」 及び 【今年度の重点】「楽しく充実感のある授業の改善」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
⑥外部資源(地域人材等)の協力要請、活用	・「地域とつながる体験・発信事業」の活用による地域人材を招聘した授業づくり。地域資源を生かした実際の・具体的な学習活動・校外学習の充実。山五小との交流及び共同学習。	・地域人材の活用では、これまでの積み重ねに加え新たな試みもなされ、見通しを持ち自分から取り組む姿や興味・関心の広がりにつながった。(R3年度実績;ダンス教室4回、ありがとうの会1回、ミュージックケア1回) 教員(10/10)、保護者(9/9)	A (94.7%)	・地域人材を活用した授業や山五小との交流について、これまでの実績・成果を生かしつつ、県事業の動向や児童の様子等も踏まえながら、よりよい在り方を検討していく。【学研部】
⑦教員の専門性の向上	・学校研究の取組と外部講師招聘の授業研究会の実施。オンラインの活用による各種研修会への参加。各教科等を合わせた指導における三つの柱と3観点を意識した授業づくり。	・学校研究の取組及び授業研究会(助言者:特支課指導主事)を通して、児童が主体的に取り組むための支援の工夫等について学ぶことができた。 ・オンライン研修会の機会を積極的に活用し、専門性を高めることができた。 教員(9/10)、保護者(8/9)※保護者アンケート「登校が楽しみ」		・引き続きオンラインによる研修会の活用を図るとともに、研修成果を確実に全体で共有できるようにする。【学研部】 ・各教科等を合わせた指導における目標設定と学習評価について、実践を通して更に研鑽を積んでいく。【教務部、学部】
【めざす学校】「相談や支援を受けられる、頼りになる学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
⑧地域の特別支援学校としてセンター的機能の充実【教員のみ評価】	・教育相談業務の平準化のため、複数で対応。学校見学、巡回相談等への速やかな対応。	・就学に係る教育相談は、担当以外の教員も含め分担して対応できた。複数の目で子どもの様子を捉えることにもつながった。 ・県事業の巡回相談員派遣も1件あり(山五小の職員研修会講師)、センター的機能を果たすことができた。 教員(10/10)	A (100%)	・学校見学の対応は授業時間中のため、教頭+担外の教員で行うようにする。【教頭、学部】 ・より円滑な教育支援業務(学校見学、教育相談等)のため、山形市教委及び本校等との連絡調整を密にしておく。【教頭、教育支援委】
【めざす学校】「働きやすい、やりがいのある学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
⑨全職員の学校経営・学部経営への参画と協働的な校務運営【教員のみ評価】	・担当部署の全体計画をもとに、準備・作業等は協働。事務部との連携。各部署での確実な資料整理、保存(紙媒体及び電子データ)。	・大きな行事など、担当部署からの提案を元に全職員で役割分担し、計画的・協働的に進めることができた。 ・環境整備や児童への関わりなど、事務部の協力を得ながら学校全体で児童を見守り、教育活動に当たることができた。 教員(10/10)	A (100%)	・業務分担・(繁忙)時期・支援体制等を含め、全体として業務の平準化に努めていく。【教頭、学部、各分掌、委員会】 ・職種の違いを尊重しながら、引き続き児童のために「チーム学校」として連携・協働していく。【全体】